

絶対服従



For Adult Only

R-18

YAMADAICHIROKU



今日はまた一段と
派手な戦いだったな

町が一つ
壊滅したん
じゃねーか？

何で戦ってるかは
知らねーが街の
人間からすりゃ
迷惑な奴らだろ…



おらっ！
起きろ！

そっちは
どうだ？

ダメだな
死んでる

ふっ

だけど俺等に
とっちゃ金の
なる木…

フリキュアの
通った後は
宝の山だぜ



こっちに
来てくれ…

んっ？



おいっ！
若い女だけ
でいい

そんなの
放っておけ





車から道具
持って来い！

おいっ！
B班から
連絡が入った

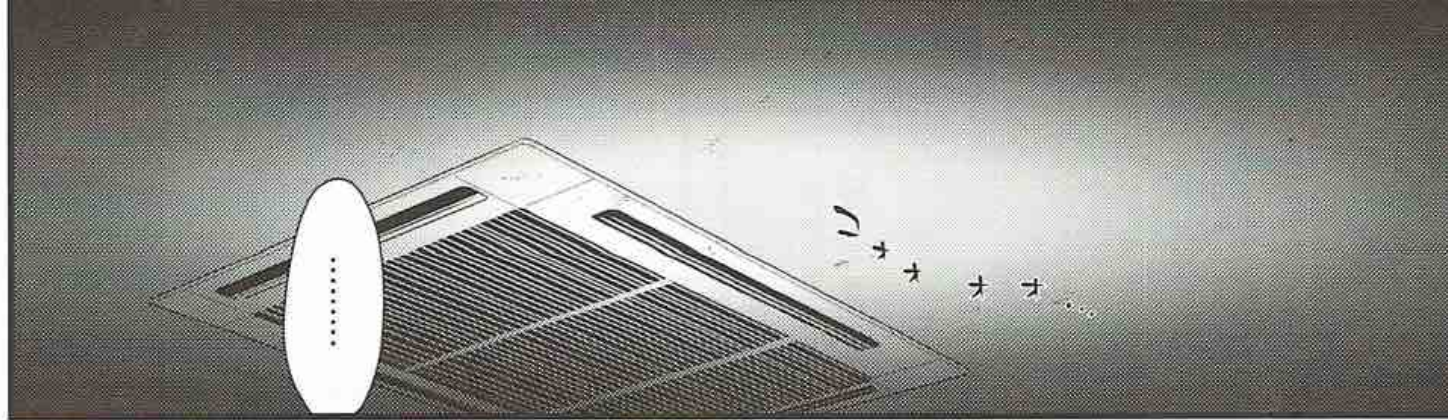
へりが
こっちに向
かってる

察の動きは
どうなってる？

こっちはまだ
大丈夫そうだが

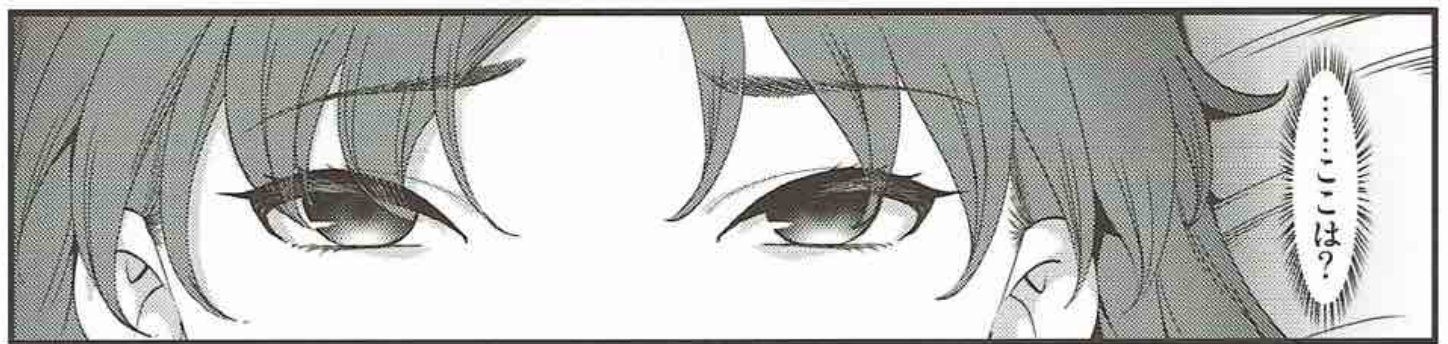
マスコミのへりが
こっちを通るかも
しれん

急いで撤収するぞ！



……

✕ ✕ ✕ ✕



……ここは？



見覚えのない
部屋……

病院……？
ではなさそう……

頭がぼんやり
して体が重い……

皆は……？

誰か居ないの!?



私達はノワールと
戦って……

その後は……

何も思い
出せない……



だ……えか……

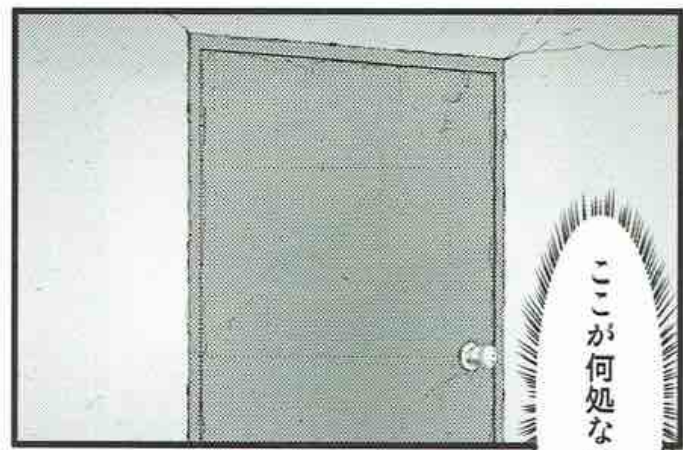
あーえっ……

だえ……あ……

声が出ない!?

何故!?

どうして!?







体に異常がないか診せてくれ



私が!?

そんな……

感覚が鈍くなっているせい……!?



すぐ終わるから



それに……

あれだけの傷が全て綺麗に消えている

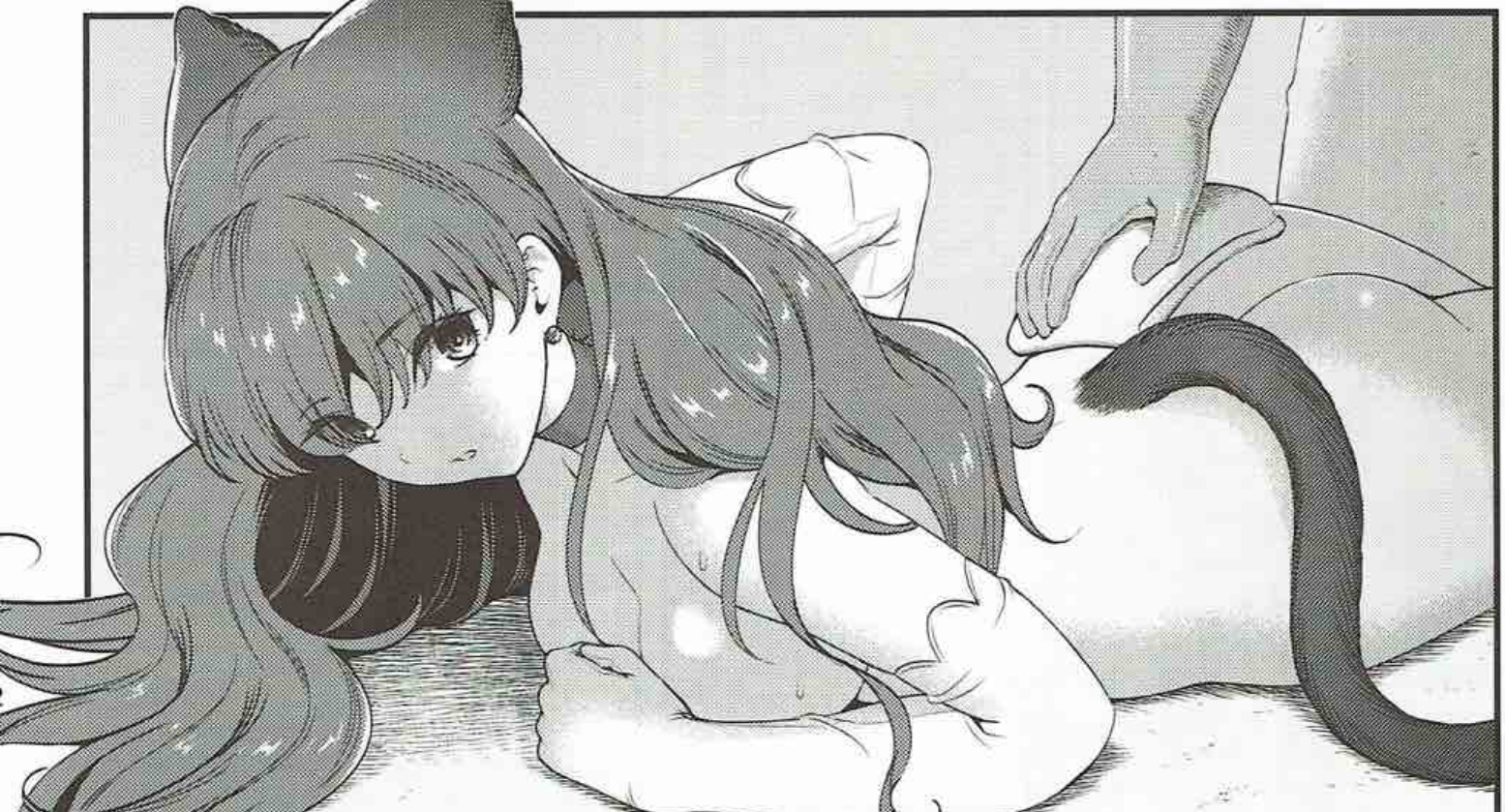
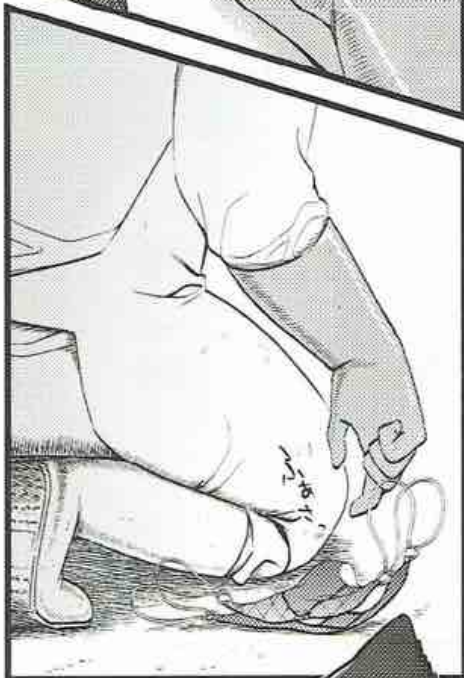
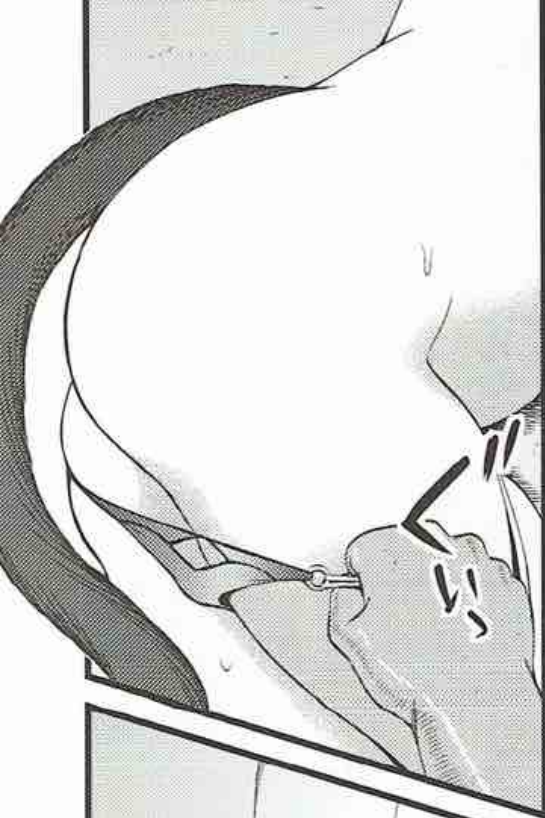
ブリキユアってのは凄いな……

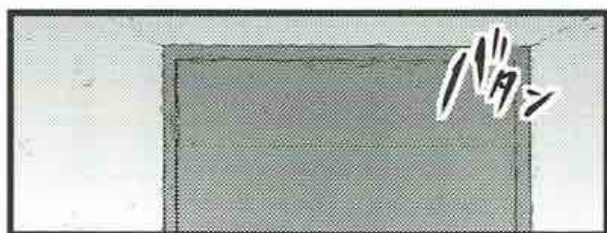
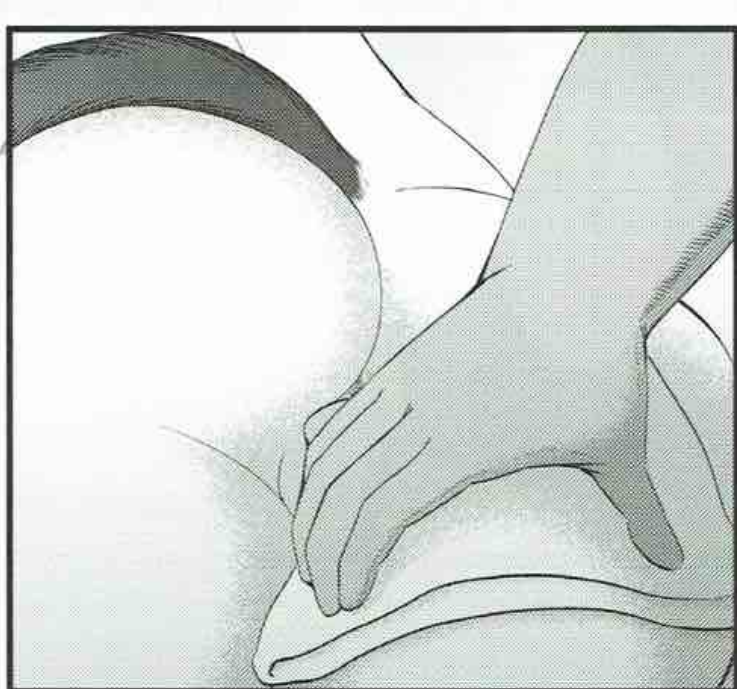


体調に問題はない薬も効いてる……

ここまで動けたのが信じがたい









プリキユア……か……

あの子達……

どうして
いるかしら……？

きつと……
泣いでいるわね



食事は朝昼夜の三回

和食洋食中華問わず
常にバランスの良い
食事が配膳されたが……

スイーツが出ることは
絶対になかった……



翌日ドアの開く音で
目を覚ますと先生と
呼ばれていた男が
入ってきた

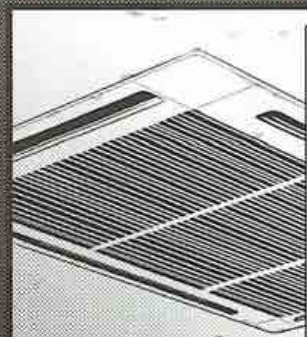
彼は私の体調に
問題がないかを
くまなくチェックし

少しでも体調に
変化がみられると
その日の大半は
看護に費やされた

検診は毎日行われ
彼の入室が朝を知らせる
目覚まし代わりになった

薬による制御は
されていたが

空調で快適に
保たれている
部屋では自由に
動き回ることができた





トイレには一人で
入る事ができたが
監視カメラが常に
私の動きを追った



入浴は一日一回
そして必ず女性が
一人同伴した



ある日薬の効力が
弱まっているのに
気づく

少しずつ耐性が
ついてきたの
だろうか…

そして私は
脱出する事を
決意する

決行するのは医者が
入室してくる朝

薬の効力が一番
弱まる時間……



おいっ!!
女が逃げた!!



うおっ!?

んっ!!



あぐっ!

久しぶりに部屋の外を歩けたことがなにより嬉しかった

しかし…地下へと続く階段を一段下りるたびに何をされるか分からない不安が募る……

連れてこられた先は大きな鏡で半分に分かれただけの区切っただけの何もない部屋……

そこで全ての着衣を脱がされる

男達は通信機からの指示に従い私に様々な恰好をさせた

その大半は屈辱的なものだった……

ただの鏡ではない
と理解した私は

見えない鏡の向こうを
おもいつきり
睨みつけてやった

ひと月も過ぎた頃
プリキュアの服を
着せられ目隠しを
された状態で
車に乗せられる

私にはもう
プリキュアは
遠い昔の事の
ように思えた…

ボロボロだった
服は新品のように
綺麗になっていたが

どれくらい
走ったのだろう…

車が止まると
男は私の腕を引き
どこかの建物の
中に入った

目隠しを外され
長い廊下を進む

そこには小さな部屋が
沢山あるようで
様々な国の女性が
押し込められており…

誰もが暗く怯えた
表情をしていた…



身なりの綺麗な男がドアを開け何かを告げる

行くぞ

何なの!?



いつもと違い男達もどこか緊張しており

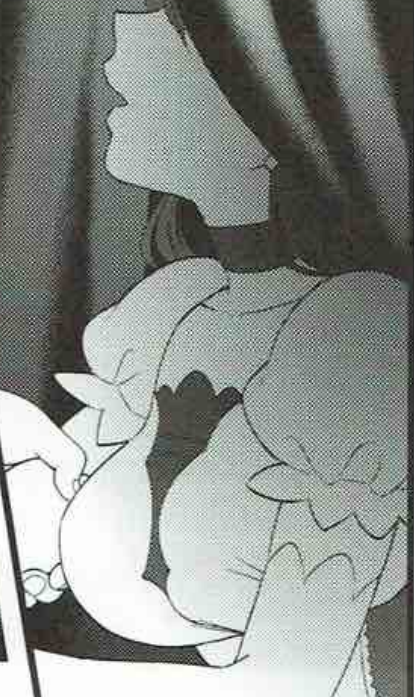
それが私の不安をさらに掻き立てる...

あの薄汚い部屋に戻りたいとさえ考えていた...



今度は私に何をさせようとしているの？

私を突き出した後に男が呟く「フリキュアには本当に感謝してるぜ」



Lot 10	
JPY	00000000
EUR	00000000
USD	00000000
CHF	00000000
GBP	00000000

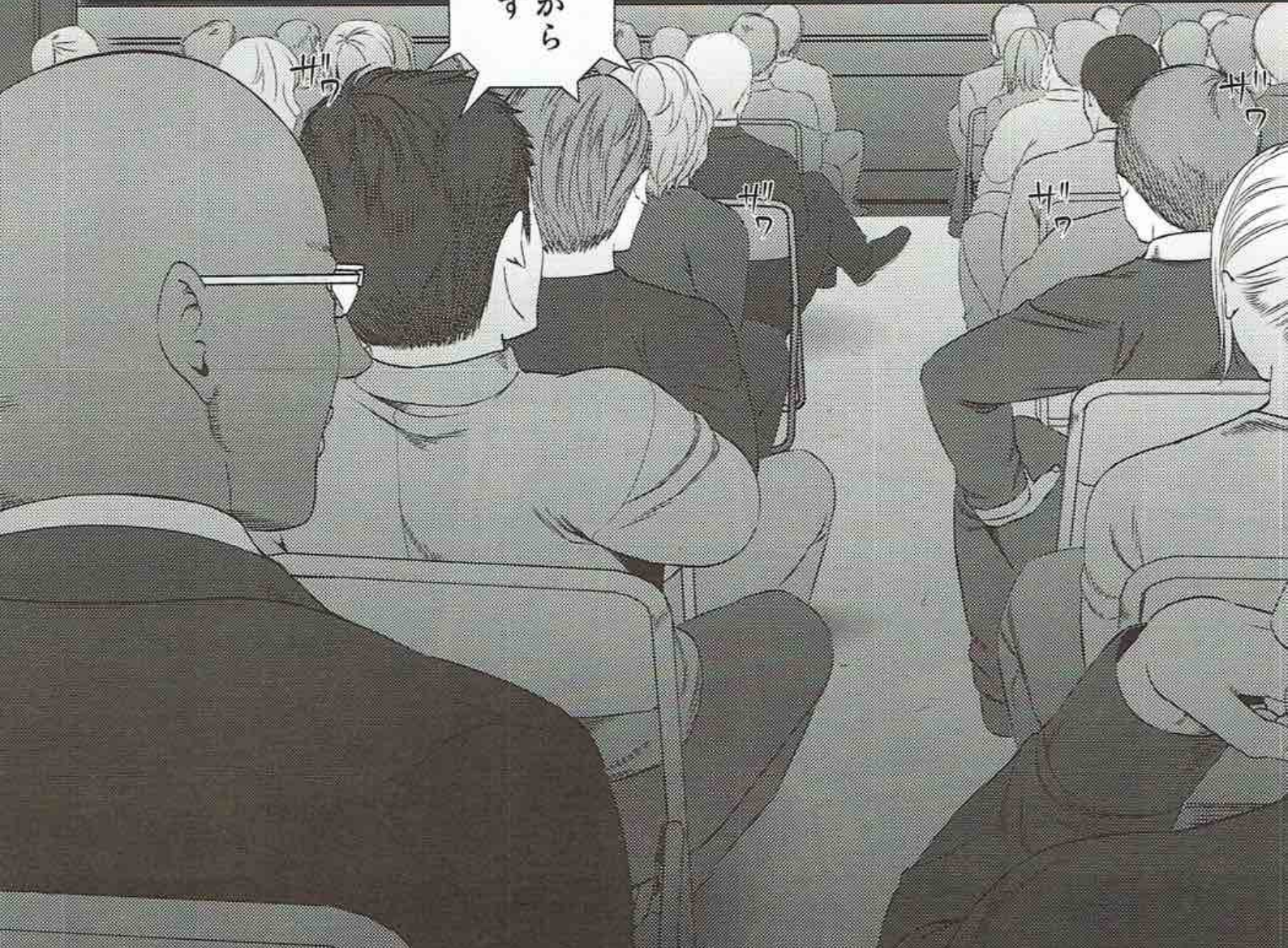
ブリキユア最後の
一人は千年に一人と
言われる美貌を持つ
少女キユアマカロン
になります！

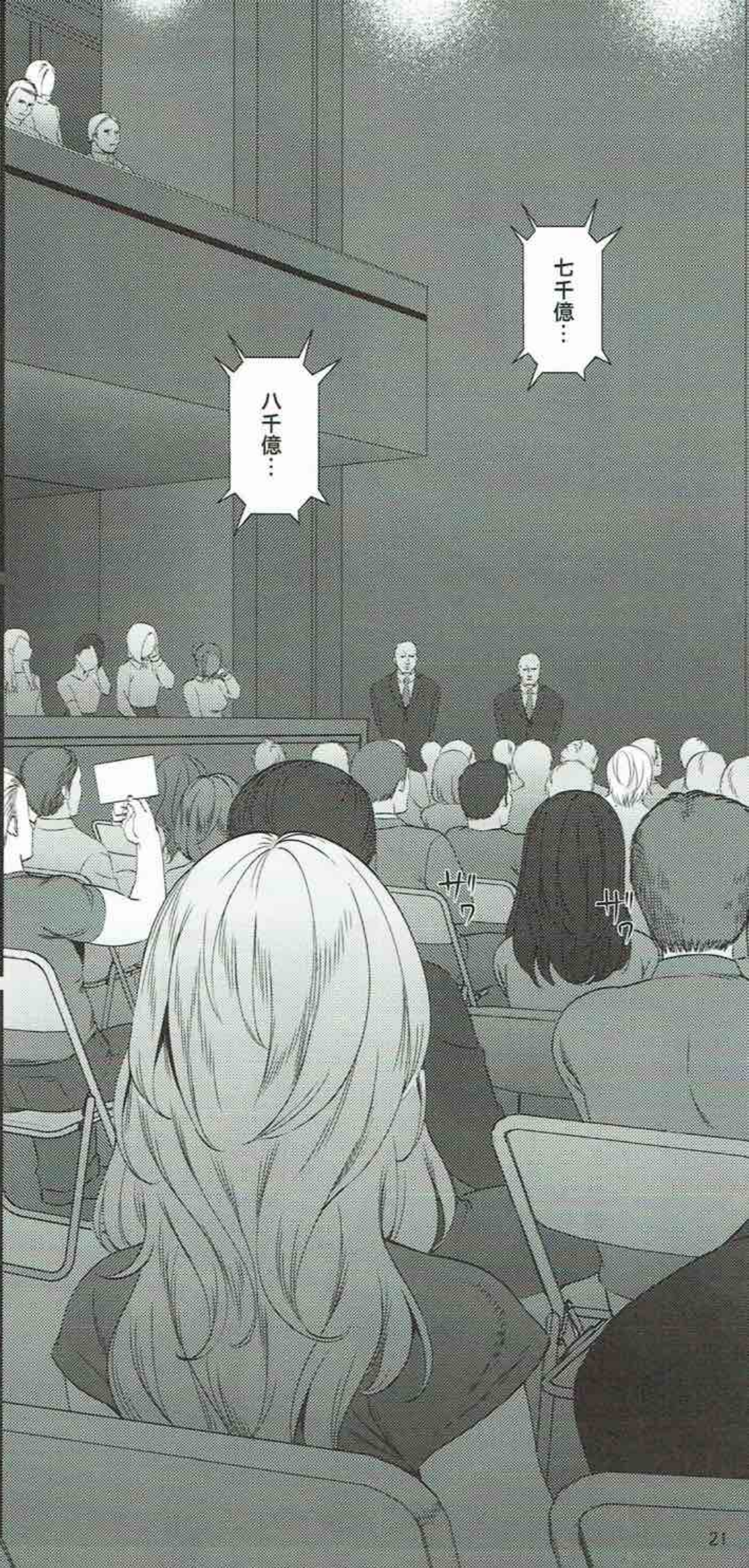


六千億…

YMF-AUCTION

五千億円から
開始します





四兆…

いませか？

四兆……

四兆…

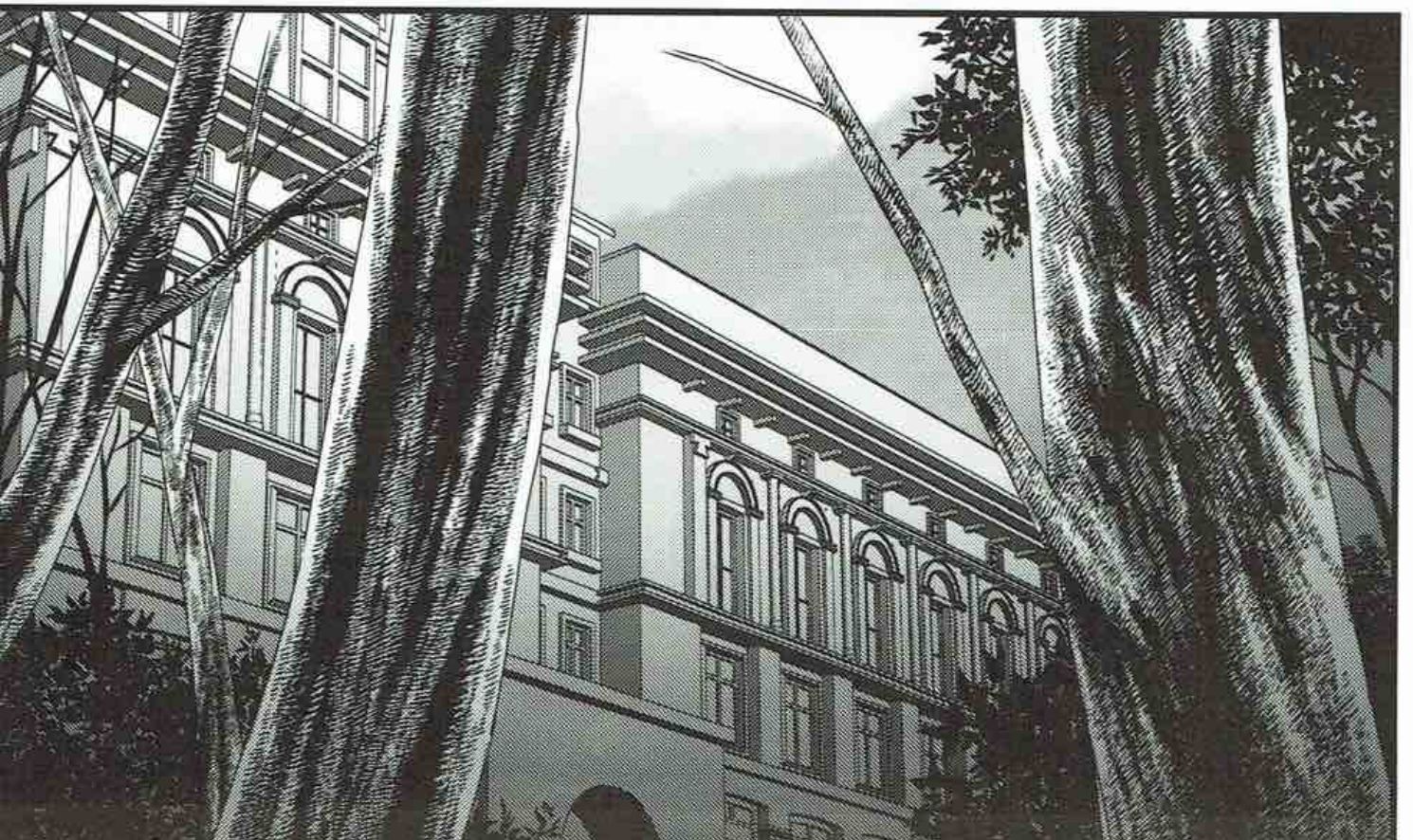
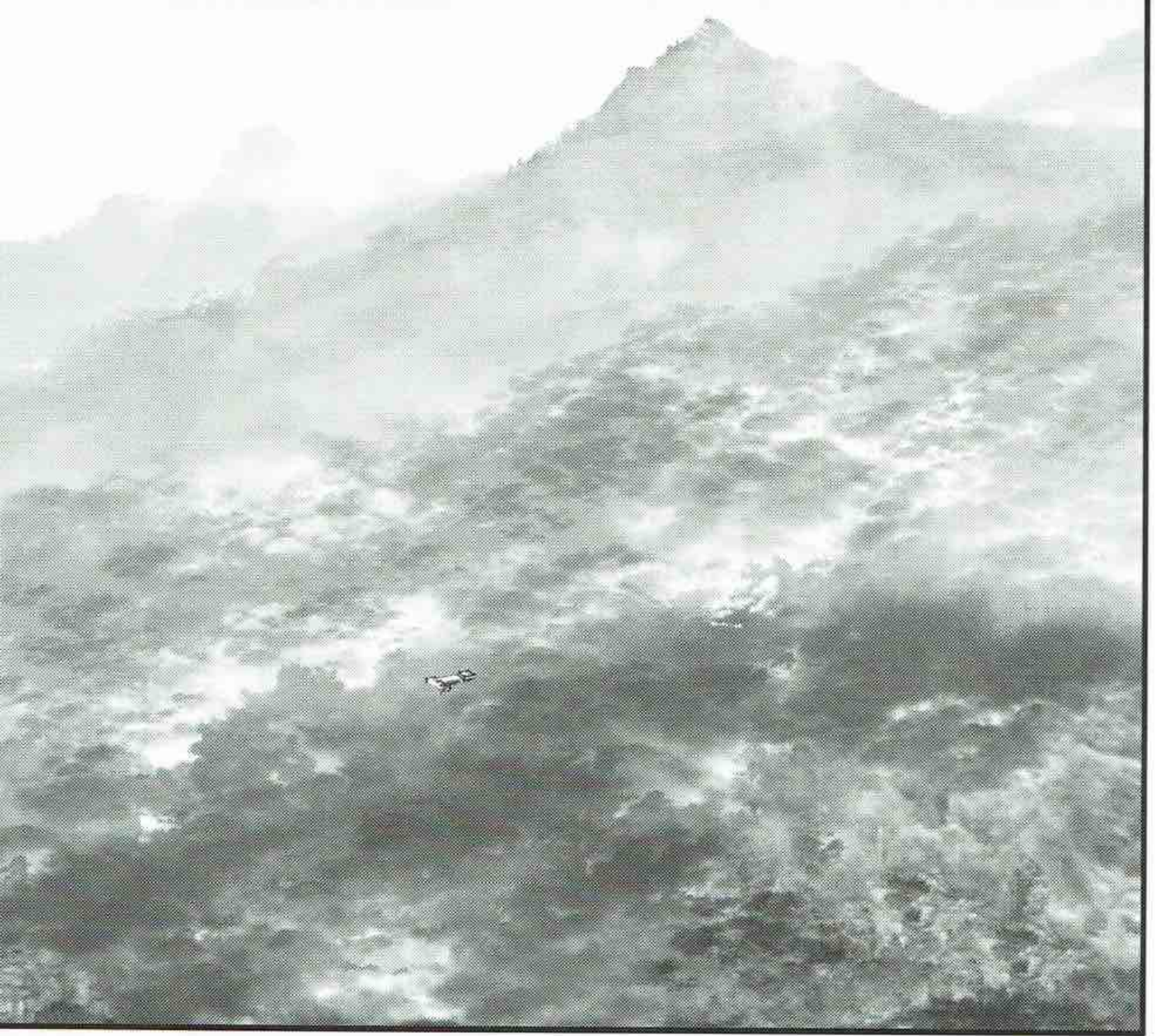
四兆出ました!!

では156番の方が
四兆円で落札です!!

オ
オ
オ……

この時初めて自分が
オークションの商品
だったことを理解した







何がいけなかったのだろう……？

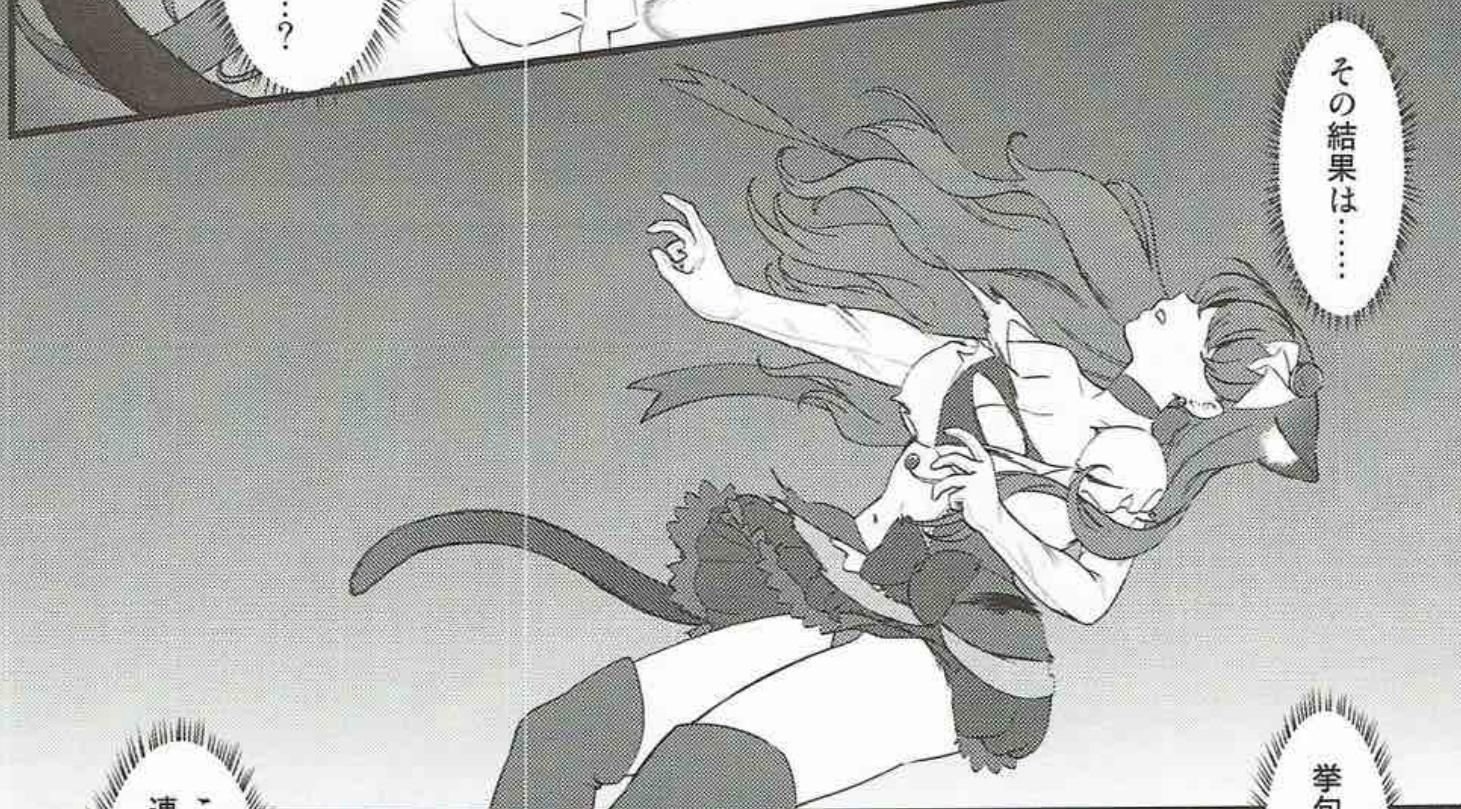
あの時
一度撤退しておくべきだった？

あの技さえ
決まっていれば……

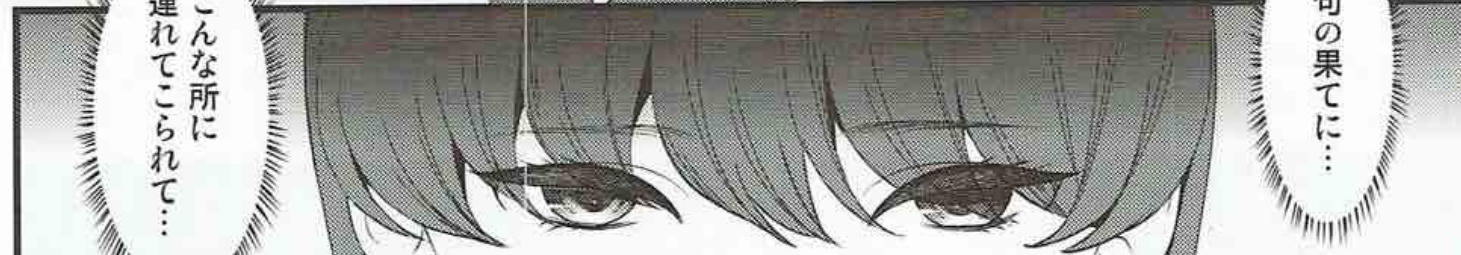


私達六人がいれば
どんな状況でも
打開できると
信じていた……

それが慢心
になったの……？



その結果は……



挙句の果てに……

こんな所に
連れてこられて……





あっ……

あんっ

んっ……

あっ

あっ……

あんっ……

それで……

私はいつまでこの下劣な光景を見続けなきゃいけないのかしら？

嫌がらせのつもり？

趣味さ……

綺麗な少女が大きな男達に汚されているのを見るのが好きなんだ

おかしい人達がいるのは知っているけど

あなたは特に狂ってるみたいね



……



あなたに
落札された
のは私だけ？

私はキュア
マカロンの
ファンでね

あの子達……
プリキュアの
仲間が今
どうしているか
教えて欲しいの



数ヶ月前にまた
プリキュアが
競売にかけられる
という情報が
流れたんだ



見えないはずの
こちらを睨む君と
目があつた瞬間
あの場で射精して
しまった……



多いんだよ
年頃の少女に
プリキュアの
側だけ似せた
偽物の競売が……

どうせまた
偽物だろうと
あまり期待は
しなかった……

競売に登録されると
高額な商品は事前に
下見ができるんだが

あの薄汚い施設で
君を見たときは
嬉しさで
震え上がったよ

おっ……おっ……



私は猫っぽい
少女が
好きでね

ほら

その可愛い
声で鳴いている
子達もどか
猫っぽいだろ？



私を知りたいのは
仲間が今何処で
どうしているかよ!!



!



だが……
所詮は代用品



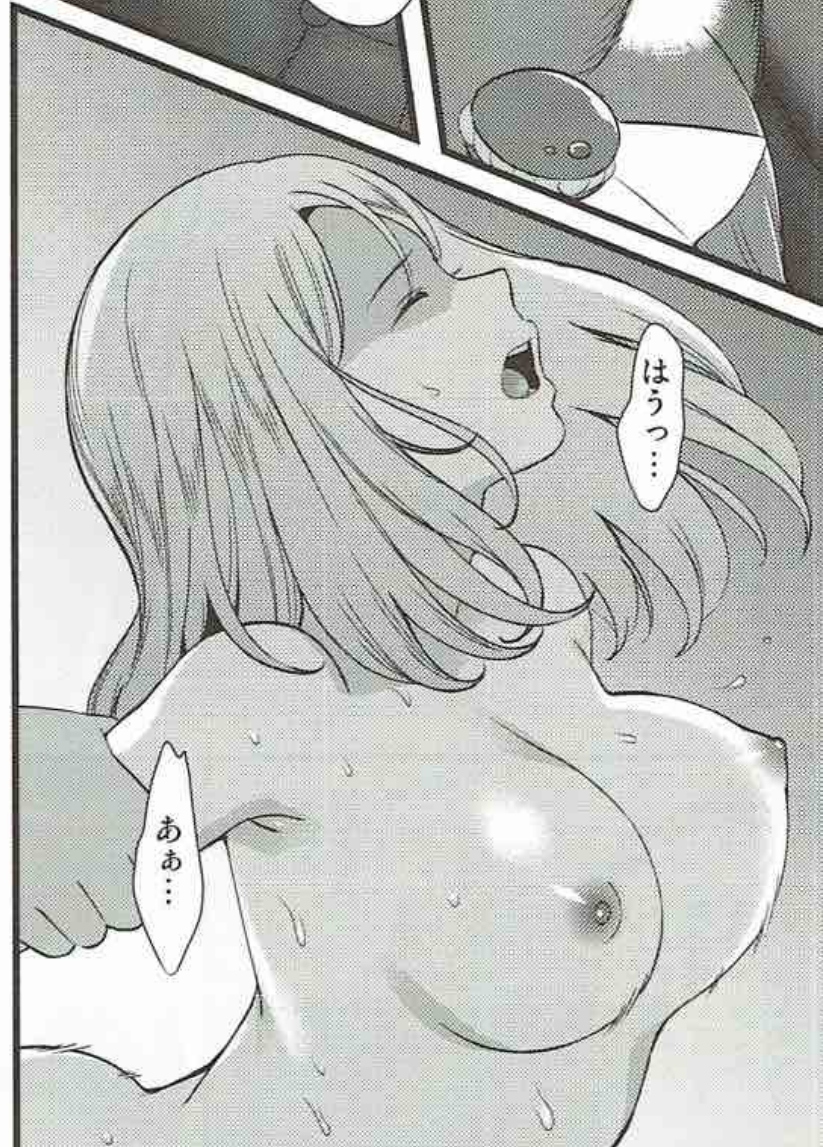
良いショー
だった!

特に鳴き声
がいい!

猿の鳴真似に
そっくりだ



本物がある今
もう価値のない
不用品だ



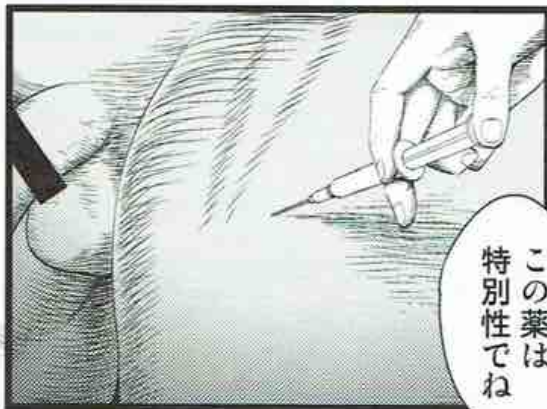
はうっ……

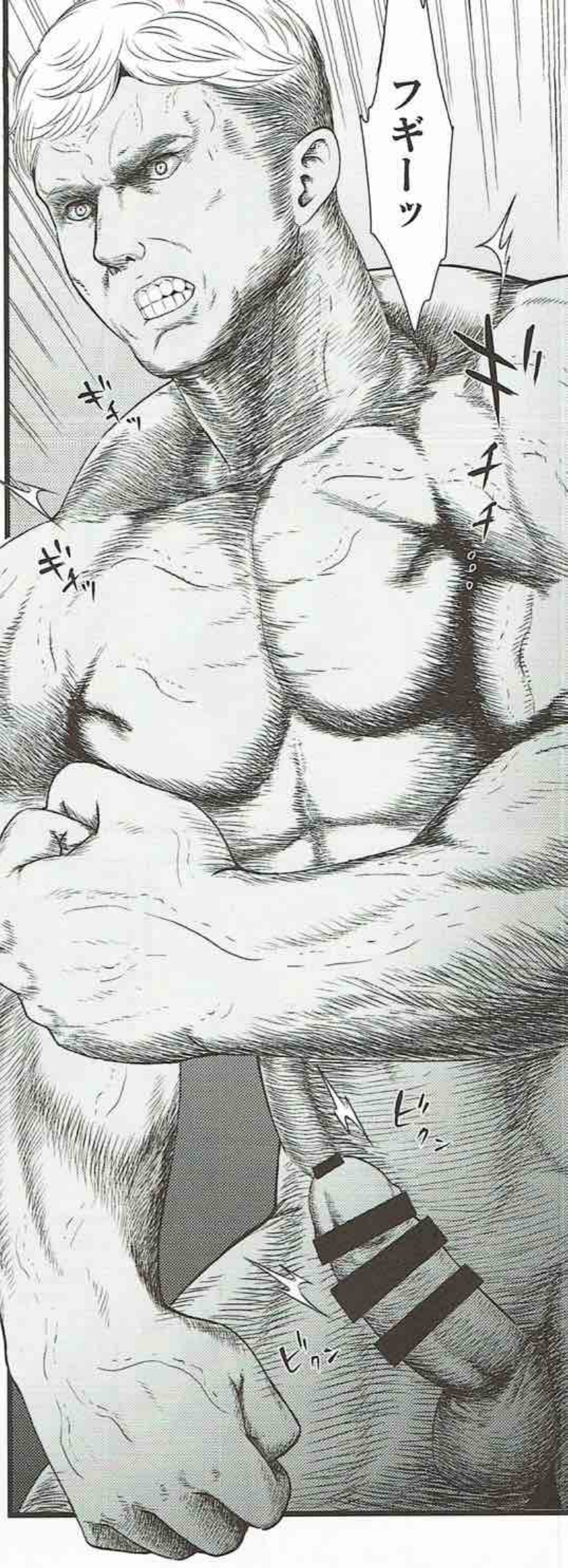
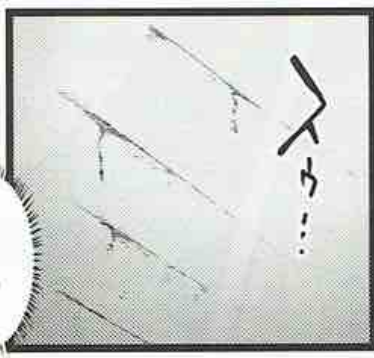
ああ……



そいつは
処分しとけ

へっ?









くさっ……っ……

やっ……め……

っ……



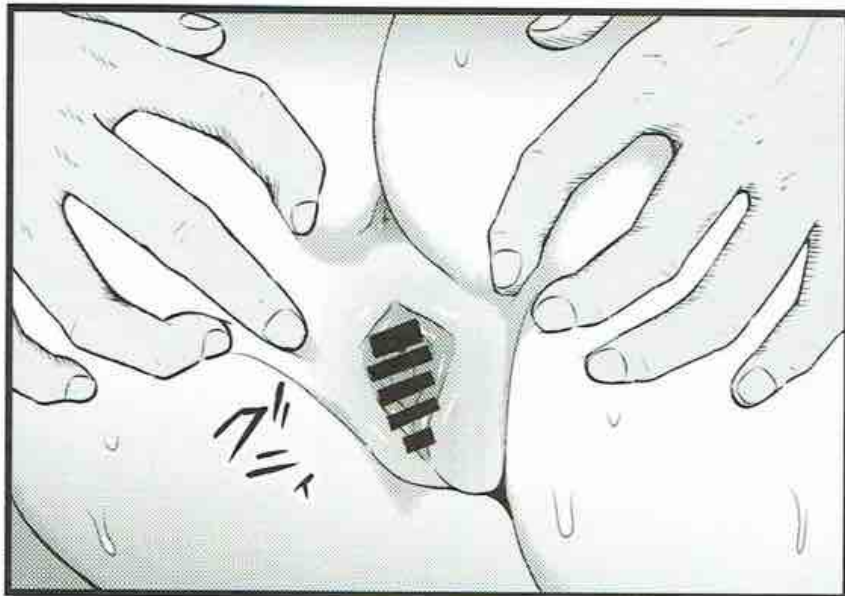
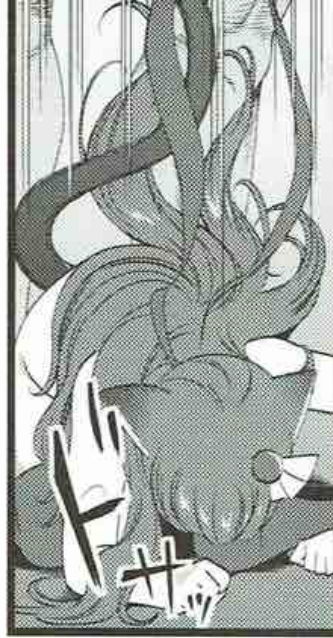
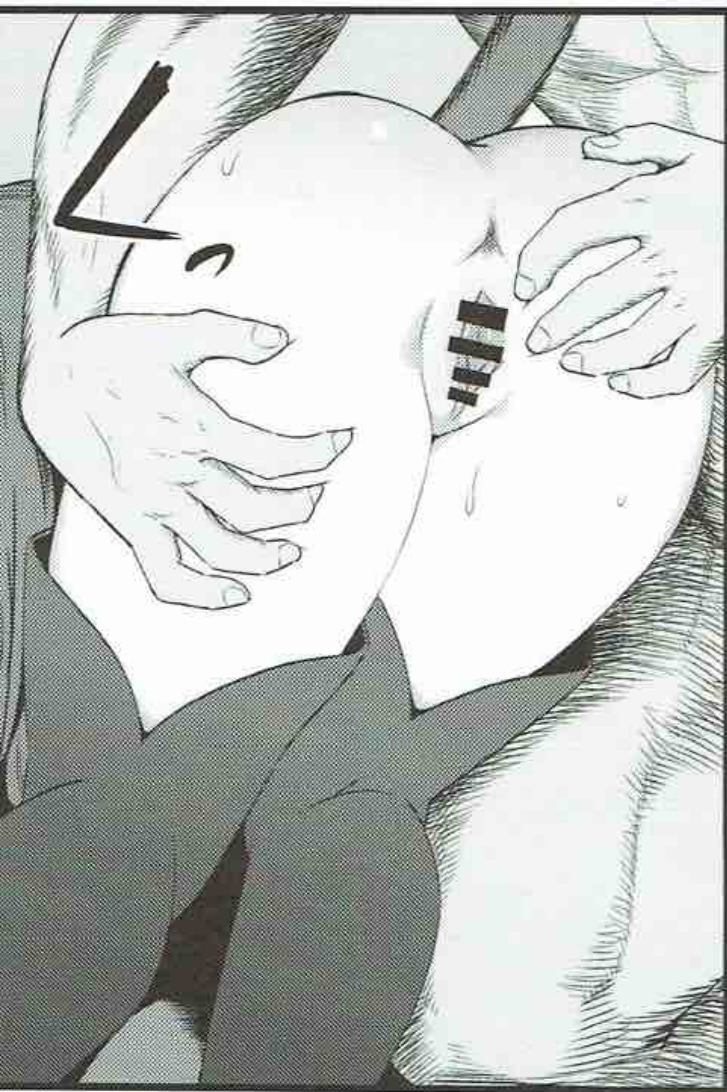
ゆっ……

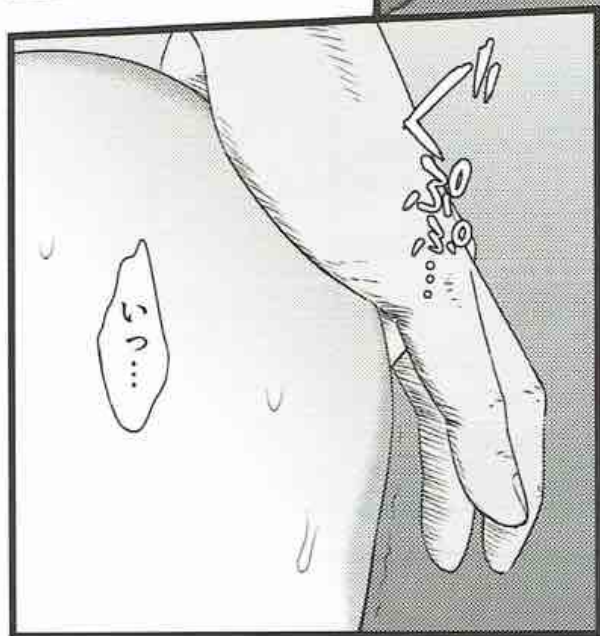


ゆっ……

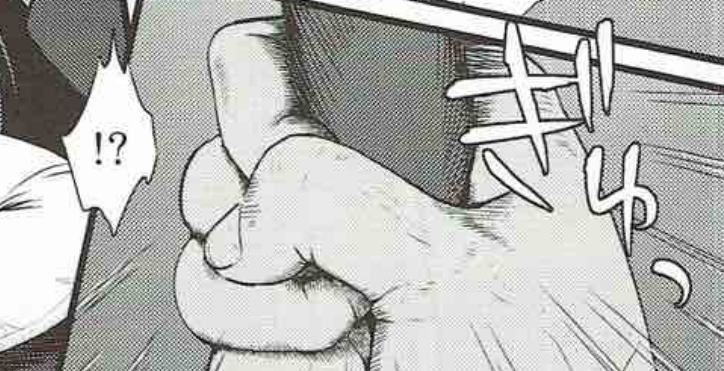


ゆっ……







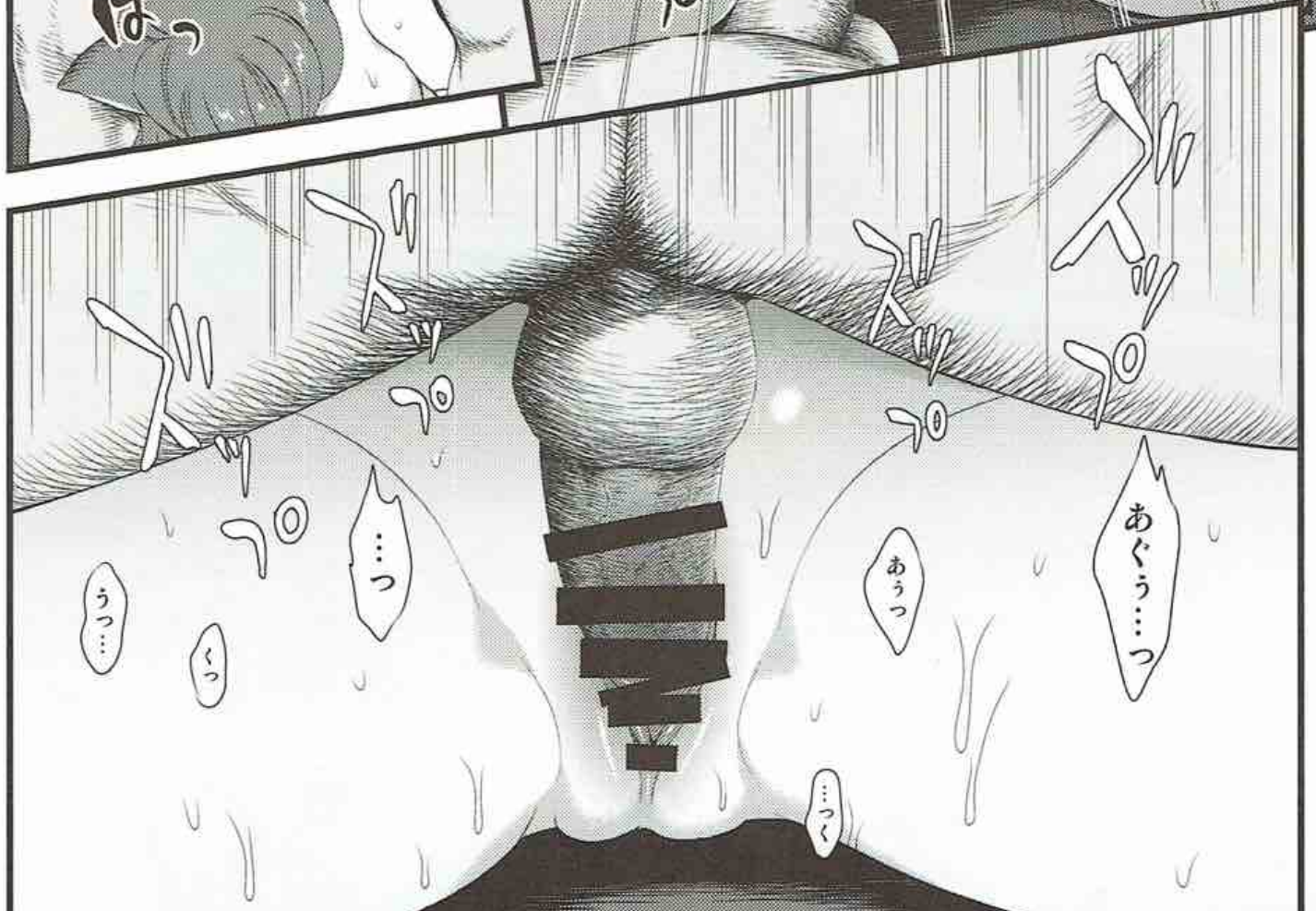
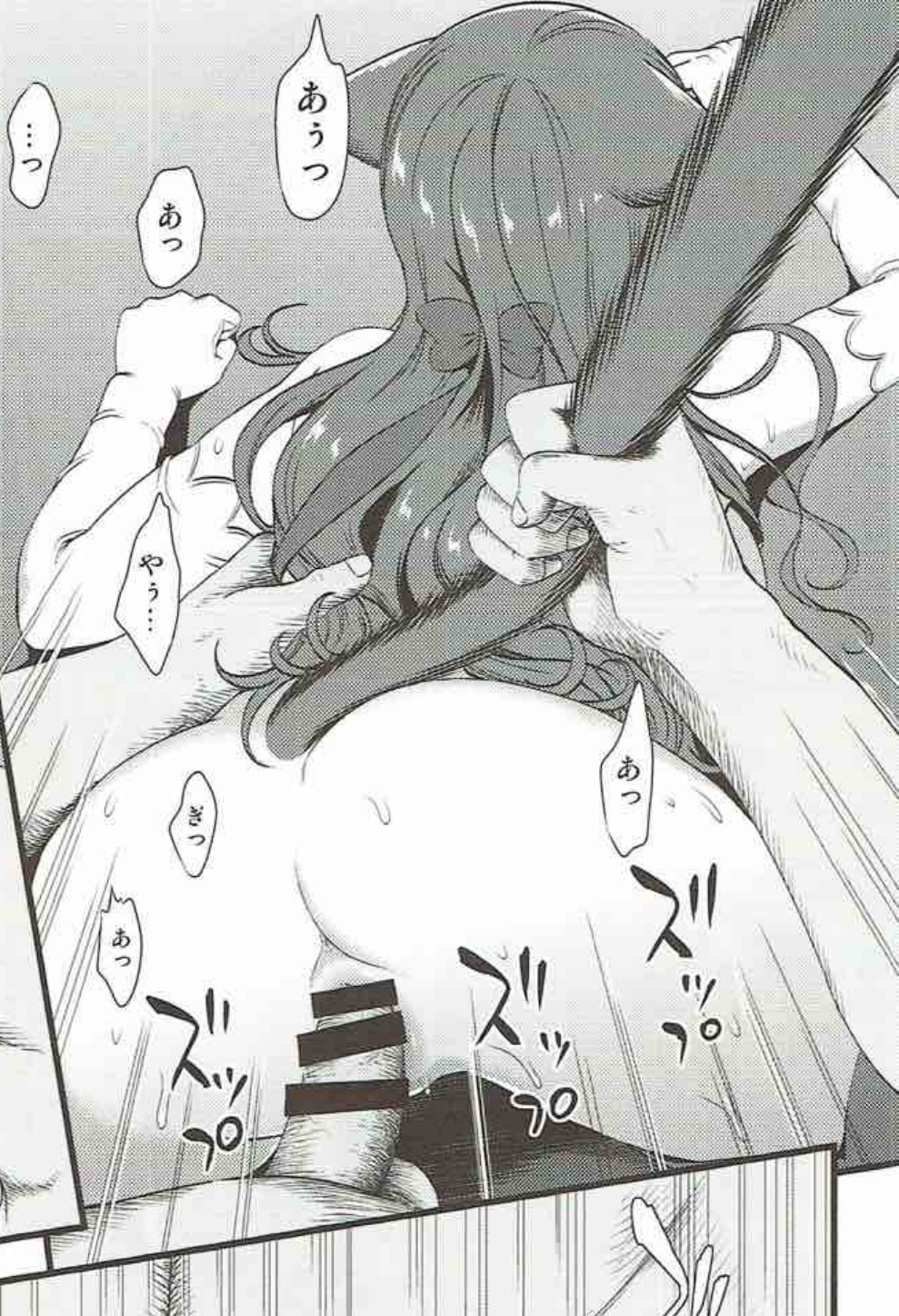














オラツ!

もっと
鳴けよ!!

グッ...

くっ...

グッ...

うっ...

グッ...

うっ...

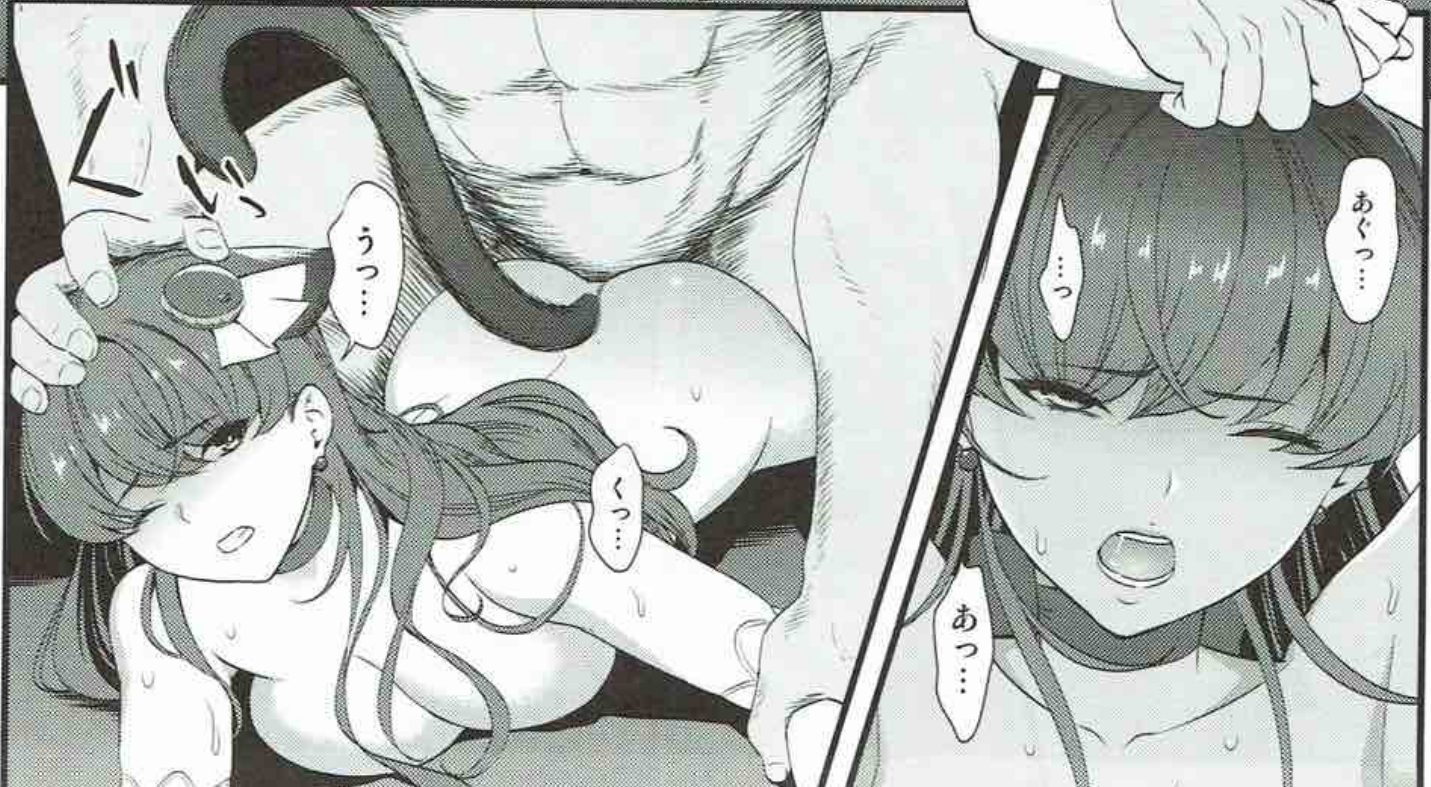
グッ...

あ...

うっ...

うっ...

うぐ...



あぐ...

うっ...

うっ...

くっ...

あ...



おおおおお!!!

あぐっ...

がっ...

ぐっ...

ひっ...

ぐっ...



うぐっ...

ぐっ...

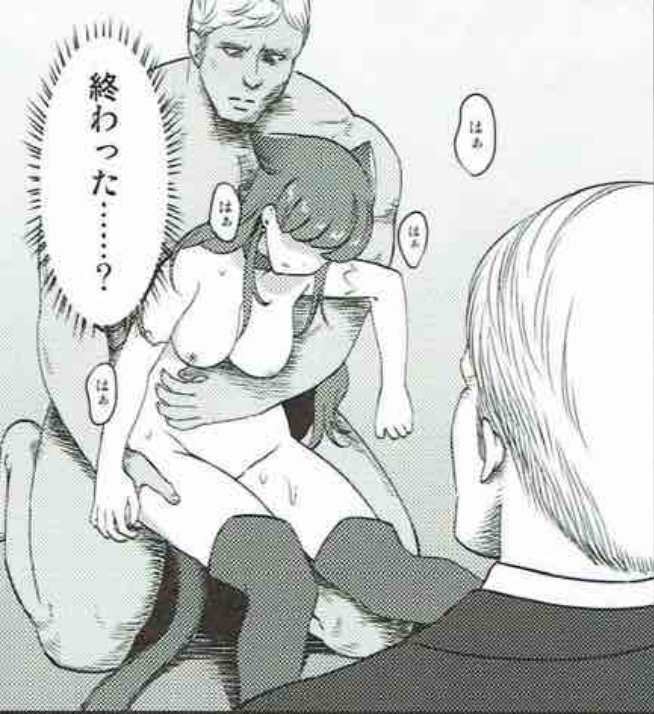


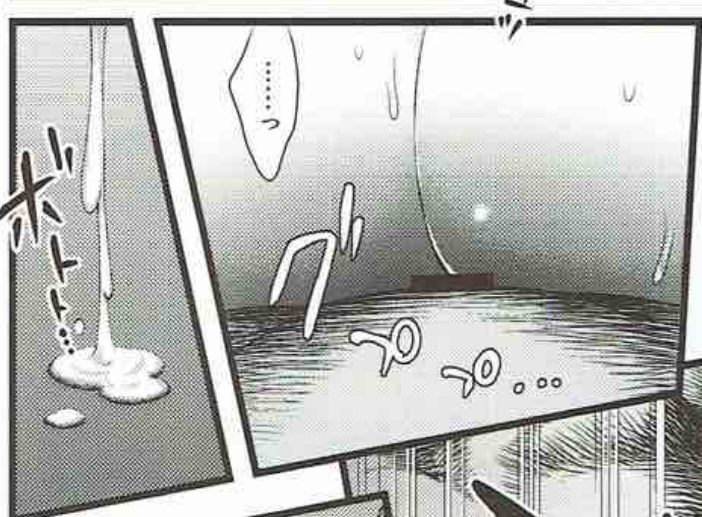
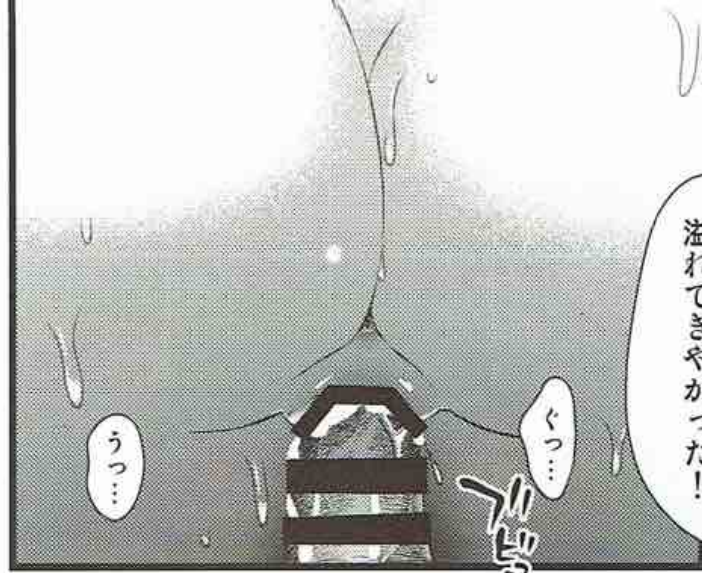
ぐっ...

ぐっ...

ぐっ...

ぐっ...









なあ：
おめえの
その耳は
本物なのか？

あう...っ

あう...っ

あう...

くっ...

あう...う

うり...
うり...



ぐふっ！

うっ...

うっ...

うぐっ...

うっ.....

うっく

うっ

壊...される...

あっ...

あう...

うっ...

うっ.....

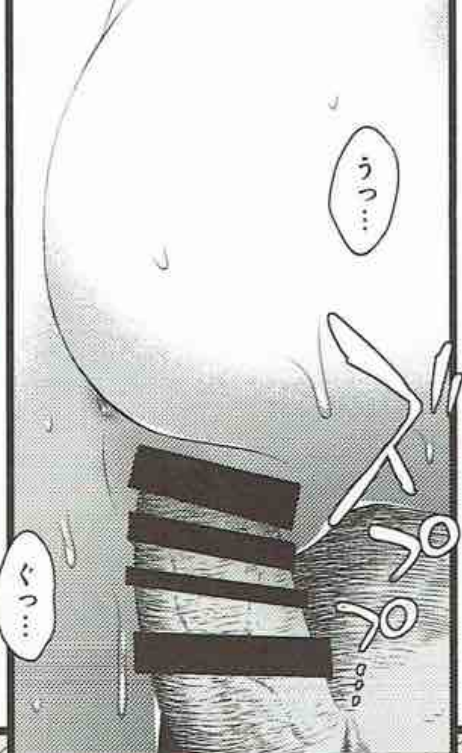
今度は俺だ…って



なんだよ…

もうへろへろじゃねーか

うっ…



ぐっ…



…っあ

あ…ああつ



か
は

ちゅ
ちゅ

っ…ぐっ

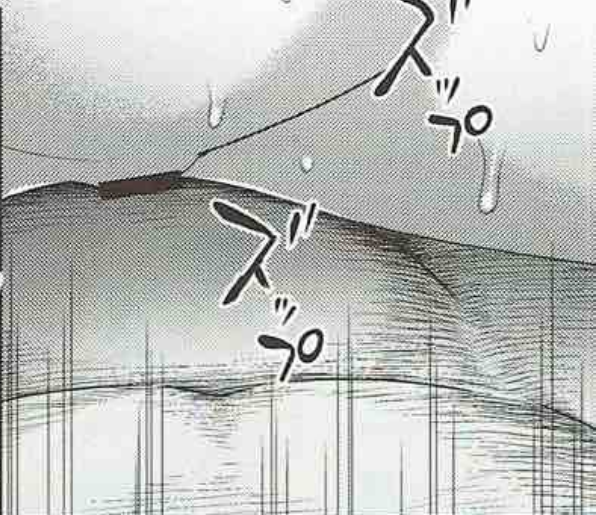
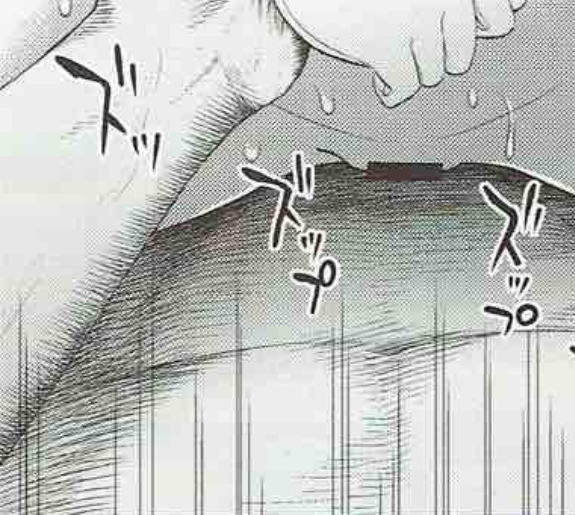
…っ

んぐっ…!

んー!

んー!

ちゅ
ちゅ





はっ...

はっ...

はっ...

はっ...

はっ...

はっ
はっ
はっ

はっ
はっ
はっ

はっ

はっ

はっ





飼い猫になった君に
ささやかな贈り物を
させてもらおう



素晴らしいかった…

こんな濃密な
時間を過ごした
のは初めてだ



これからは
私がお前の
飼い主だ

うぐっ…

例えプリキュアで
あろうと

この家では私の
命令に背く事は
許されない…



絶

対

服

従



絶対服従

2017年8月13日発行

サークル 山田一族。(もきゅ 袋小路)

URL <http://yamadaweb.sakura.ne.jp/>

MAIL yamadamofumofu@yahoo.co.jp

印刷 スズトウシャドウ

この同人誌は18禁です。18歳未満の方の購入、閲覧禁止。
また無断転載、複製、インターネットへのアップロードを禁止しています。

山田一族。
